

育之稚アユ20万匹

一ツ瀬川漁協
来月まで放流

一ツ瀬川協(田中重雄会長)は昨日、一ツ瀬川本流を中心に稚アユの放流を始め、今年度は計8回に分けて、県産稚アユの養育も兼ねた約20万匹(10000尾)を川に放す。

今日は一ツ瀬川本流や鏡川流域のほかに、西都市開入の約5kmを流れる千匹川にも、計30万匹を放流。県初の放流地となった本流大橋付近では同協会や市職員らも人が作業に参加し、バケツやホースで稚アユを川に放した。現在の稚アユは体長約8

cm、体色は黒い。西都市は、大橋のほかに、千匹川のほかに、鏡川のほかに、計30万匹を放す。西都市は、大橋のほかに、千匹川のほかに、鏡川のほかに、計30万匹を放す。

cm。川に放たれた後、本流を駆けはなるとして、元気な稚アユは、関係者は笑顔を見守っていた。

アユ漁の解禁は8月1日。田中会長は「昨年は濁水や大雨で川が濁り、アユの成長

が遅かった。今年は濁水や大雨の心配がないので、成長が早い」と話した。

同協会はアユのほか、ニシマスやヤママス、モズマス、ウナギなどの放流も今年度走っている。



稚アユを放流する一ツ瀬川漁協の関係者

徳白 24,4,13